

児童図書研究室ニュース 2003.12.10

福島県立図書館 <http://www.library.fks.ed.jp>

No.47

「児童サービス入門講座」報告

10月31日に東京子ども図書館常務理事 荒井督子先生を講師に迎え、標記の研修会を開催しました。講義テーマは「蔵書を築く - 入り口から出口までの責任 -」です。

まず、事前に出されていた課題「『子どもと本の世界に生きて』を読んで一番印象に残った箇所を書き出す」について、先生からのコメントがありました。参加者一同が、著者コルウェルさんから多くを学び、児童図書館員としての姿勢を再確認しました。概要は次のとおりです。

・図書館の蔵書は維持管理が必要です。そこに「本がある」だけではだめで、選書に際し今、子どもが欲しがっている本ではなく、本当に彼らの心の糧として求めている本は何かを知り、書架を充実させる必要があります。蔵書の評価は、選書、受け入れ、利用提供、除籍までトータルに考え、そのために図書館員が責任を持つことは当然のことです。

・公共図書館は教育機関です。ただ学校と異なる使命は、人が、個人として、自ら進んで、自分を高めようとする時に助ける役目があります。図書館の教育性は、資料と人(図書館員)にあります。ですから市民に託されてその任にあたる人の責任は大きいのです。

・本を選ぶということは、規制することでも、排除することでもなく、むしろ書架を豊かにすることです。どれが良くてどれがそうでないか専門家としての姿勢を示すことです。今の「売ればいい」という出版状況に図書館員は流されてはいけないと思います。子ども時代の読書は量より質です。心底、感動できる本に、出会える場が地域の図書館なのです。

・翻訳図書の場合「どれが原書に近いか」を見極める必要があります。名作のダイジェスト版はいいものがあります。

・幼年向けのお話を選ぶとき、参考になるのは昔話です。特に出だしの部分が大事ですが、昔話がどのようになっているか気をつけて見てください。会話でお話を進めるとやさしく分かりやすくしていると考えがちですが、幼い読者を混乱させるだけです。

・地域の図書館の児童室は、開架図書は、一万冊を超えない方がよいと思います。多すぎると出会いたい本に出会えなくなるからです。書架には、「なんでもいいからたくさんではなく」(脇明子「こどもの図書館」2003年7月号より)子どもの内的世界が広がるような蔵書を、提供するように努めなければならないと思います。

学校と図書館をつなぐ - 連携に必要なもの -

11月21日に開催された読書活動指導者養成講座において、講師の明定義人氏(滋賀県高月町立図書館長)から、学校と図書館の連携についてのお話がありました。

まず、学校と図書館に共通することとして「実施している人(大人)が楽しくても、受け手の子どもたちが楽しくなければいけない」「実施者だけが楽しくて受け手の子どもたちが楽しくないが一番よくない」ということでした。このことを前提に学校と図書館は連携を考えていく必要があります。

・今、「学校図書館」は動き出すところで、まだ連携をするところまでは至っていません。現段階では、「学校」と図書館の連携の状態です。

・最近、学校と図書館との敷居が低くなってきていると感じています。高月町立図書館では、教師が利用したい資料を揃えることで来館を促し、コミュニケーションを図っています。その中で「調べ学習には司書が必要だ」との声が教師からあがってくることを望んでいます。

イベント・講習会 情報

・「ふくしま絵本ゼミ」子供と絵本の未来のために

日 時:2004年3月6日(土) 5月29日(土)
9月11日(土)

講 師:松居直氏(児童文学作家 福音館書店相談役)

問合先:福島こどものとも社 TEL024-951-2697

・児童図書館員養成講座

平成16年度の日程が決まりました。詳細は、『図書館雑誌』2004年4月号に掲載されます。

期 日:前期2004年6月28日(月)~7月3日(土)

後期2004年9月27日(月)~10月6日(水)

会 場:日本図書館協会会館

NEWS

国土地理院は、博物館と図書館の記号を新設し、今後発行する基本地図(2万5千分の1)に記載すると発表しました。図書館の記号は、本を広げた形です。

国土地理院 <http://www.gsi.go.jp/>

11月18日に東京のオリンピック記念青少年センターにおいて第2回ブックスタート全国大会が行われました。参加者は全国から図書館・保健センター・地域ボランティア等関係者272名でした。

【ご質問・情報はこちらへ 福島県立図書館・児童図書研究室】

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL024-535-3218 FAX024-536-4787

E-mail kodomo@library.fks.ed.jp